

2017年3月28日

内閣総理大臣 安倍晋三様
外務大臣 岸田文雄様

新日本婦人の会
会長 笠井貴美代

国連の核兵器禁止条約交渉会議に不参加を表明した日本政府に 満身の怒りをもって抗議します

3月27日より国連で核兵器禁止条約の交渉会議が100カ国以上の参加で始まり、核兵器廃絶への歴史的な一步を踏み出しました。しかし、唯一の被爆国の日本政府が、交渉会議への不参加を表明したことは恥ずべき態度であり、満身の怒りをもって抗議します。

会議初日には、被爆者が自らの被爆体験を語り、「同じ地獄をどの国のだれにも絶対再現してはなりません。核兵器不使用を保証できるのは核兵器廃絶以外にありえない」と全人類的立場で訴えました。私たち新日本婦人の会は、会の目的に核兵器廃絶の実現をかかげ、創立以来55年間、行動し続けてきました。被爆者が呼びかけた国際署名は、7県の知事をはじめ自治体首長567人が署名・賛同するなど、核兵器禁止条約の実現を求める世論は日に日に広がっています。

日本政府が、アメリカのいいなりに核兵器禁止条約に反対してきたことは、こうした被爆国国民への背信行為です。交渉会議への不参加を表明した日本政府に対し、改めて強く抗議します。